



「夢と希望を語ろう」第10回大人の教育シンポジウムを2015年11月27日東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開いた。写真は開会式で挨拶する鈴木仁日本PCA教育振興会会長。シンポジウムの詳細は2～3頁、プログラム・馳浩文部科学大臣の祝辞などは4頁に掲載しました。

PCA活動にさらなるご支援を

日本PCA教育振興会会長 鈴木 仁



新年おめでとうございます。青少年の健全育成を目的に発足した本会も、今年で設立17年目を迎えます。2002(平成14)年に「夢と希望を語ろう」と始めた『大人の教育シンポジウム』では、子どもの教育や親、学校、地域の役割などについて、ゲストの皆様と一緒に考えてまいりました。

10回目を迎えた昨年は「地域で子どもを見守ろう」というテーマの下、パネリストに元検事総長・原田明夫、洋画家・絹谷幸二、日本スポーツ少年団副本部長・三屋裕子の3氏をお迎えし、コーディネーター寺脇研氏の絶妙な進行の下で活発な議論がなされました。

原田氏は「二人の子どもを育てるためには一つの村が必要、挫けそうな時でも救う人や認める人がいれば立ち直れる。そういう社会を目指そう」と提言。絹谷氏は「1+1=3」という発想も大事。子どもたちの個性を認め、大人が積極的に交流して一人ひとりの可能性を伸ばしていこう」、三屋氏は「スポーツを通じた異年齢の交流は地域だからこそできること。チームプレーという互助の精神が、コミュニティを強くしていく」など、それぞれの視点から地域で子どもを見守り育てていく大切さを説かれました。

ここに改めて4名の皆様に御礼申し上げると共に、今後も子どもたちが安心・安全に夢を持って成長していくために、大人は何をすべきかを追及してまいります。皆様のご鞭撻・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

第3号

2016年
1月1日



日本PCA教育振興会

Japan Parents and
Citizens Association
for Education

発行人 鈴木 仁

〒156-0056
東京都世田谷区八幡山
3-6-2

☎03-5317-4131

FAX03-3304-2188

PCAとは？

PCAの「C」はシティズン(市民)です。PTAは、子どもが学校を卒業すると、親たちも学校教育の現場から離れざるを得ませんでした。それを子育ての終わった人、子どもを持たない地域の人たち、教育に関心のあるすべての人に参加していただき、子どもたちの教育を考え、実践しよう。それが日本PCA教育振興会の考え方

です。

2000年7月に発足して、「夢と希望を語ろう」と大人の教育シンポジウム第1回を文部科学省に隣接した旧国立教育会館虎ノ門ホールで開いたのが2002年。以来、全国各地で開催し、今回2015年11月の国立オリンピック記念青少年総合センターでのシンポジウムが第10回を迎えました。

コーディネーター

寺脇 研氏

東京大学法学部卒。1975年文部省入省。ゆとり教育を推進。2001年審議官、02年文化庁文化部長。京都造形芸術大学教授。映画評論家。NPO法人日本映画映像文化振興センター理事長。教育・生き方・映画に関する著書多数。



パネリスト

三屋 裕子氏

筑波大学大学院修了。1984年ロサンゼルス五輪女子バレーボール銅メダル。筑波スポーツ科学研究所副所長。サッカーJリーグ理事。日本バレーボール協会評議員。日本バスケットボール協会副会長。日本スポーツ少年団副本部長。

パネリスト

絹谷 幸二氏

東京藝術大学大学院修了。洋画家。日本芸術院会員。文化功労者。1998年長野冬季五輪公式ポスター作成。2009年絹谷幸二賞創設。東京芸大名誉教授、大阪芸大教授。著書に『群れない生き方』など。日経新聞に2015年11月「私の履歴書」連載。



パネリスト

原田 明夫氏

東京大学法学部卒。1963年法務省入省。法務事務次官、東京高検検事長、2001年検事総長。弁護士。公益財団法人国際民事法センター理事長。東京女子大学理事(前理事長)著書に『対決と和解への条件—新渡戸稲造博士に学ぶ』など。

第10回大人の教育シンポジウム

パネルディスカッション

「地域で子どもを見守ろう」



原田氏 ひとりの子を育てるには村中の力が必要
絹谷氏 絵を描くときくらいは頭を使うな

「地域で子どもを見守ろう」。シンポジウムは、4氏がそれぞれの立場で見解を披露し、意義深い内容となりました。以下詳報。

寺脇研 第10回の記念シンポジウムです。原田さん、絹谷さんには第1回からご参加いただき、原田さんには第2回まで基調講演をお願いしました。

原田明夫 25歳から40年間、法曹の世界におりました。検事総長退官後、1年間米スタンフォード大学でクラスを持ちながら研究しました。It takes a village to raise a child. ひとりの子どもを育てるには村中みんなの力が必要という意味のアフリカの諺です。次期大統領選に立候補予定のヒラリー・クリントンさんが1996年に出版した本の題名に引用されています。

この言葉がスタンフォード大学の幼稚園の施設の上に書かれています。子

どもを育てるにはひとつの村がいる。家庭だけでなく、地域コミュニティの中で子育ては行われるものであり、そこには地域のあらゆる人たちが関わるものである、といった意味です。

寺脇 絹谷先生は日経新聞の「私の履歴書」(昨年11月連載)にニューヨークでのアートの出張授業のことを紹介されています。

絹谷幸二 絵描きは世間の常識とは違って1+1=2は間違いなんです。人と同じ絵を描いてはいけません。1+1=3という発想です。ニューヨークで子どもたちに教えたのは、財政難から絵画の授業が削られた。MOMA(ニューヨーク近代美術館)の女性館長ガッツさんが財団をつくって実現したものです。3つの公立小学校を回り、その作品はNYで開催していた個展に「KINUTANI KOJI and KIDS」として展示しました。

寺脇 続いてスポーツをお願いしました。

三屋裕子 私はスポーツ少年団の副本部長をしています。2011年に東日本大震災あり、被災地で健康支援ができないか考えました。福島、宮城、岩手県で各3、4か所。地域の小中学

生たちから嫉妬されるんです。

原田 実は、私は小学高学年のころ、ゴタだったんです。いたずらで、先生のいうことを聞かない、勉強もできない。落ちこぼれの典型だった。ところろ5、6年生のとき、りんごの絵が上手だと褒めてくれた。それで自信みたいなものが芽生えたのです。

結婚式の時、恩師は「屏の向こう側に落ちるのではないかと心配していたら、検事になるといっている」とスピーチしました。

誰かどこかで支えてくれる、励ましてくれる。アメリカでは落ちこぼれで退校処分になると、オルタナティブ・スクール(代替校)に行くのですが、『隠された才能』(David Lubar『Hidden Talents』1996年刊)という本に、立ち直った例がいくつも書かれています。

寺脇 本日の資料の中にアジア刑政

財団(ACPF)発行のデータ集『安全な国 日本』が入っています。「日本は安心・安全・正確・清潔な国」を誇っています。が、堺屋太一会長は「これからは楽しみ

の追求と野望の実現」も図って行く必要があるといっています。

絹谷 交通事故も少ない安全な国なのに、外に出ると危ないといつて、写生に出掛けるのでなく、部屋に閉じ込めています。

三屋 スポーツは究極のリアルで究極のアナログなんです。毎日トレーニングを積み重ねる、努力しないとうまくならない。私たちが五輪で銅メダルを獲得するまでに15年かかっています。ところが子どもたちはちよつとやっただけで、もう「無理、無理」といつて投げ出してしまふ。「出来るようになったら楽しいよ」「勝ったらもつと楽しいよ」「急にはうまくならないから、毎日少しずつ努力しようね」というのですが。

寺脇 平均寿命が80歳を超えて、今生まれる子どもたちは22世紀まで生きることになります。被災地は未来を先

生に、高校生がバレーボールの指導をする。大人は管理運営をするだけです。2015年で4年目ですが、うれしかったのは教えてもらったコが高校生になって、指導する方に回っているんですね。地域密着はサッカーJリーグの発足以来の考え方ですが、地域での異年齢交流ができています。

少子高齢化でスポーツ少年団員が前年比2万人も減り、従来小学4年生からだったのを1年生からにしました。保護者は挨拶や礼儀を教えてもらえるとしていますが、子どもたちはユニフォームを脱ぐと挨拶ができない。しつけは家庭の役目なのですが。

寺脇 学校5日制は、1992(平成4)年に月1回、95年から月2回、2002(平成14)年から完全実施になりました。ゆとり教育についてはどう思われますか。

絹谷 「子供 夢・アート・アカデミー」は、私の持論を河合雄雄文化庁長官に話したことから2005(平成17)年にスタートしました。日本芸術院の会員が小中高校で出前授業をする社会貢献事業です。「絵を描くときくらい頭を使うな」といつています。子どもたちは実に楽しそうで、美術の先

取りしているともいわれますが。

三屋 被災地は互助の精神。これまで誰かがやればよいと他人任せだったが、自分たちがやらなければとコミュニティが強くなっています。チームワークとかチームプレーは、その組織の中で自分が出来るか、貢献できるか、ひとりひとりがリーダーシップをとることなんです。被災地の互助は、上からドーンと補助金が降りてくるのではなく、横・横でつながってうまくいつています。

絹谷 原田人はよく考えて生活していたと思います。今の世の中、昔より退化しているのではないかと思うことが多々あります。いつて未来は無いと悲観する必要も無い。もつと知恵を働かせて。

原田 娘がアメリカで子育てをしていのですが、学校教育も財政難で保護者の負担が増えているそうです。父兄がお金を出すようになって、学校運営にも口を出すようになったといいますが、先生方だけの責任ではないといつていたのです。

寺脇 もつと聞いていたのです。時間がきました。ありがとうございました。

寺脇氏 ことし生まれる子どもは22世紀まで生きる！
三屋氏 スポーツはアナログ 努力の積み重ねしかない

近年、子供たちを取り巻く環境は大きく変化し、家庭教育が困難となっている状況や地域の教育力の低下が指摘される中、未来を担う子供たちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域が連携・協働し、地域全体で教育に取り組んで行くことが極めて重要です。

このため、地域住民等の参画により学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」や、中学生・高校生等を対象に地域住民の協力やICT (Information and Communication Technology, 情報通信技術) の活用等により学習を支援する「地域未来塾」、放課後等に子供たちに学習や様々な体験活動等の機会を提供する「放課後子供教室」、保護者への家庭教育に関する学習機会の提供や相談対応等の家庭教育に対する支援などを通じて、地域や家庭の教育力の向上を図るとともに、子供たちが安心して暮らせる環境づくりを推進しています。

また、土曜日の教育活動を推進し、子供たちの豊かな教育環境の充実を図るため、多様な企



業・団体・大学等との連携・協働による多様な学びの場が全国各地で展開されるよう取り組んでまいります。

さらに、子供たちの健やかな成長のためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。貴会をはじめとする関係団体との連携により、子供の基本的生活習慣の確立や生活リズムの向上につながる「早寝 早起き 朝ごはん」国民運動を引き続き推進してまいります。

馳 浩・文部科学大臣の祝辞 (要旨)

「地域で子どもを見守ろう」をテーマに、家庭や地域の中での子供との関わり方について語り合われることと聞いておりますが、社会全体で子供を見守り、育てていくことがより一層重要となる中で、本テーマは、時宜を得た意義深い取組であるものと考えます。

今後も、日本PCA教育振興会の皆様も、これまで培ってこられた豊富な知識と経験を生かして、子どもたちが安心、安全に生活し、夢をもって成長していける社会の実現に向けて、引き続き御尽力くださいますようお願いいたします。

第10回大人の教育シンポジウム 「夢と希望を語ろう」 (敬称略)

2015年11月27日(金)
国立オリンピック記念青少年総合センター

司会 日本PCA教育振興会専務理事・島田 益吉
開会の言葉 日本PCA教育振興会副会長・阿多 祥一
会長あいさつ 日本PCA教育振興会会長・鈴木 仁
来賓祝辞 文部科学大臣 馳 浩

(文部科学省生涯学習政策局社会教育課地域・学校支援推進室長・渡辺 栄二代読)

「早寝 早起き 朝ごはん」運動の発起人
国立青少年教育振興機構理事長・田中壮一郎

来賓紹介 日本PCA教育振興会副会長・田久保健美
パネルディスカッション「地域で子どもを見守ろう」

パネリスト 原田 明夫 (元検事総長・弁護士)
絹谷 幸二 (洋画家・文化功労者)
三屋 裕子 (日本スポーツ少年団副本部長)

コーディネーター 寺脇 研 (京都造形芸術大学教授)

開会の言葉 日本PCA教育振興会常務理事・狐崎 麻男



島田益吉 専務理事
阿多祥一 副会長
鈴木仁 会長
田久保健美 副会長
狐崎麻男 常務理事



渡辺栄二室長



田中壮一郎理事長

日本PCA教育振興会役員

- | | | |
|-------|--------------------|--------------|
| 顧問 | 与謝野馨 (元文部大臣) | 島村宜伸 (元文部大臣) |
| 特別相談役 | 明石要一 (千葉敬愛短期大学 学長) | |
| 相談役 | 中富文子 (佐賀) | 片桐良雄 (長野) |
| | 三浦規雄 (千葉) | 橋本量太郎 (大分) |
| | 薄田泰元 (新潟) | 岡部観栄 (大分) |
| 会長 | 鈴木 仁 (栃木) | |
| 副会長 | 田久保健美 (千葉) | 阿多祥一 (宮崎) |
| 専務理事 | 島田益吉 (東京) | |
| 常務理事 | 佐保博文 (大阪) | 狐崎麻男 (千葉) |
| | 田口豊實 (青森) | |
| 監査役 | 小林庄市 (福井) | 松下文芳 (北海道) |
| | 木下 徹 (東京) | 丸 洋栄 (東京) |
| 理事 | 田中康司 (岐阜) | 山田誠香 (大阪) |
| | 井門照雄 (愛媛) | 島袋光尋 (沖縄) |
| | 三角田慎二 (和歌山) | 長谷部衛平 (千葉) |
| | 荒川 律 (栃木) | 川端政広 (福岡) |
| 事務局長 | 東 洋子 (東京) | |